

HNS (人間・自然・科学) 研究所が
太陽プロジェクト「ヒューマンパーク」構想を打ち出す
構想を具体化するための研究会を
早急に発足させる



小松電機産業(株)



小松 昭夫 社長

小松電機産業(株)は、シートシャッター「門番」、遠方監視装置「やくも水神」の開発・製造・販売を主力事業とする。創業は一九七三年。農機メーカーの佐藤造機に勤務していた小松社長が、同社の会社更生法適用申請を機に退社、独立した。若千二十八歳、十萬円の資金と中古ワゴン車、工具箱を元手に機械修理からスタートしたが、七五年には水道の給水施設を集中制御する計装システムの受注生産で、メーカーとしての本格的な一歩を踏み出した。

水道計装の分野で地位を固め、八五年に開発した「門番」が新たな飛躍の原動力となった。これは、工事や工事現場などの出入り口に車が近付くと、超音波センサーが働き、ビニール製のシャッターが開閉する装置で、車から降りなくても作動するし、開閉時間も短いとあって、注文が殺到した。本格販売にあたり、大

手の文化シャッターと技術・販売面で提携したことが全国展開にもつながった。この提携は鉄製の一般シャッターとの併設設計を標準化するなど、同社の技術水準の向上にも貢献した。

発展の基礎を築いた計装システムでも、新製品を次々に投入している。九四年には水処理装置を組み込んだ集落排水制御監視システム「NEWやくも水神」を開発した。これは施設からの計測データを解析し、水処理を制御、効率化する装置である。従来の排水計測・制御・監視システムに、窒素やリンなどの処理装置を組み合わせている。微生物を使って汚水処理するもので、一つの処理槽で曝気と沈殿を繰り返す回分式汚泥処理方式を採用。微生物の活動が活発になるよう空気を自動制御し、効率的な処理を図る。維持費も比較的安いことから、河川の富栄養化に悩む中小市町村の集落排水向けに売り込んでいる。

さて小松電機産業グループのHNS(人間・自然・科学)研究所(島根県松江市浜乃木二の六の九、所長小松昭夫氏)は島根県が全面干拓を計画している中海・本庄工区(二千四百ヘクタール)について、水面を残して栽培漁業や有機農業、観光産業などを柱とする太陽プロジェクト「ヒューマンパーク」構想を打ち出した。

この民間私案は、県が干拓し、陸に計画している部分をそっくり水面で残すという逆転の発想となっているのがポイントだ。水面には鉄鋼や造船技術を利用して移動時の海洋構造物を複数設置する。この海洋構造物から太陽光を海底のヘドロに当てることでバクテリアを繁殖、藻類やプランクトンが育つと魚が集まってくるという仕組みだ。自然のサイクルが可能となり、栽培漁業に加え、施設は観光資源としても活用できる。

一方で、本庄工区の島根半島側の一部を造成、有機農業などに利用していく。これまでの仕事(九二年に中断)でできている堤防やポンプ場などの既存施設をそっくり活用、すぐに着工できるのも特色だ。総事業費については五百億円から内容次第では五千億円にも膨らむビッグプロジェクトになるという。

同研究所ではこの構想を具体化するための研究会「ベンチャーアカデミー太陽(仮称)」を早急に発足させる予定だ。地元松江市に続いて近く東京でも発表会を行って事業への参加を呼び掛ける考えだ。

今後の展開が期待されよう。

社長 小松 昭夫
本社 島根県八束郡八雲村東岩坂
電話 〇八五二(五四) 一一六六 一八〇